

エスピーエヌ新聞

2021年春号
Vol.4 (季刊)

発行：(株)エスピーエヌ
文京区音羽 1-1-9 2F
☎03-3942-0138

設立後最大のミスをしてしまいました

いつも大変お世話になっております。『エスピーエヌ新聞』もお陰様で第4号の発行に漕ぎ着けました。これまでご協力頂きました皆様、ご愛読頂いております皆様にお礼を申し上げます。有難うございます。

創刊号でも記させて頂きましたが、弊社は平成9年4月にそれまで勤めていた三和興業印刷株式会社（以下、三和）の倒産に伴い、その受け皿会社として当時の営業マン4人で会社を立ち上げました。

設立当初は当然資金に余裕など有りませんので、事務所も日の当たらないアパートの一室を借りてのスタートとなりました。机を買うお金も勿体無いので、ちようごそのアパートの近くの会社が粗大ゴミとして古い机やスチール本棚を出していたので「その机と本棚、捨てるのでしたら頂けませんか？」と聞いてみました。「いいけど、壊れているよ」と言われましたが、使用にそれほど差し支えが無さそうでしたので、頂戴して使用させて頂きました。

そして、倒産した三和の裁判所から選任された破産管財人の仕事のお手伝い（お客様や仕入先の情

報・仕掛かりの仕事の状況等の提供）をして、その見返りとして三和で使用していた乗用車等を格安で譲って頂いたりしました。

印刷会社としてのスタートも同時に切りました。三和でお世話になったお客様に一軒一軒邪魔して、経緯をお話し新会社設立のご挨拶に回りました。時代も味方してくれて、割と順調にお仕事を頂くことが出来ました。（当然最初は金額の少ない案件からの受注でした）

その電話が鳴ったのは、会社を設立して2ヶ月目に入った6月5日の夕方5時でした。外出している時に携帯電話が鳴りました。仕事をお願いしている会社の担当の方からでした。「齊藤さん、今日は支払日だね。まだ入金になっていないけど、どうなっているの？」？！すつかり忘れてました。と言うか全然アタマに有りませんでした。血の気が引くとはこの事です。後頭部をハンマーで殴られた様な感覚です。（実際にはハンマーで殴られた経験がないので正しいかどうかは分かりません）「すみません、うっかり忘れてました。今日は銀行も閉まっているの

で、明日午前中にお振込みします。申し訳ありません」とお詫びをして電話を切りました。幸いにして、この時のお支払いはこの一件だけでしたが、本当に焦りました。金額にして7,000円位の支払いでしたが、当然ですが取引先はキンと支払うかどうか、最初の振込み日を守るか見ているのですよね。我々が逆の立場だったら勿論その様に見ます。最初の支払日に遅れたら『この会社は大丈夫か！』と思ってしまうですよ。

これは本当に言い訳になってしまいうのですが、我々は長年営業マンとして仕事をしてきました。お客様から依頼を受け見積書を作り、お仕事を受注して手配をし、納品して請求書を発行するのが仕事で、それが全てでした。取引先への支

払いは、ズーッと経理の方がやってくれていました。この電話を頂いた時にハッキリと認識が変わりました。『そうだ！今までとは違うんだ！全てを自分たちでやらないといけないんだ！』会社を立ち上げるのですから、当たり前の事なんです。今まで勤めていた三和の延長という様な感覚が多かれ少なかれ残っていたと思います。この時に心を入れ替えました。会社の業務は全て自分達だけでやっていくんだ！（気付くのが遅いよ）

この設立後最大のミスがあったので、お陰様でそれ以降は一度も支払いに遅れた事はありません。

今後とも仕事に精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

自分史制作のススメ

現在、『私の履歴書』を連載しておりますが、身内の中でも大変好評を頂いております。ある程度のボリュームになりましたら自費出版で本にしたいと思っております。そうすれば、自分と言うものを後世に伝えられるのではないかとひそかに目論んでおります。

と同時に父や祖父の自伝も、もし有るのであれば是非読んで見たいと感じました。どんな幼少期を送ったのだろうか。興味が尽きませんが残念ながら、そんなものは有りません。

ですので、せめてこの新聞を読まれている方は、『自分史』を作られる事をオススメします。お

子さん・お孫さんへの大切な遺産になる事間違い無し。僕は自分の葬式の時には、参列された方へお配りする様、遺言に残すつもりです。（多分まだ先の事）

幸い今はオンデマンド印刷機があるので、小ロットでも作成が可能です。テキストデータが有れば、平綴じ120ページくらいでしたら、300部で30万円くらいから作ることが出来ます。もちろんお金に余裕が有れば、もっと予算をかけてカバーや見返しなどを付けたりする事も可能です。

どうです、あなたも一生の思い出に『自分史』を作ってみませんか。弊社で喜んでお手伝いさせていただきます。

TAKAX



創業50年。東京都北区の総合印刷会社です。

24時間土日祝 自社工場稼働
タカックス株式会社

ANESTA



大学・企業の
「？」を
「！」にする会社

多種多様なニーズにお応えする
プロフェッショナルとして、
進化を続ける会社です。



学校の先生のための
教育情報総合サイト

<http://manalabo.allow-web.com/>

manalabo

検索

TOKYO PERAL
GINZA



サマーセール開催

6月16（水）～21日（月）



DMをご希望の方は
下記メールアドレスに
ご連絡ください
saito@tokyopearl.co.jp

民音音楽博物館
MIN-ON MUSIC MUSEUM



一般財団法人 民主音楽協会

SPN交遊録

お世話になった野口社長とのここだけの話し

アローコーポレーション顧問 井上 康男

野口亨社長とは私が前任のライオン企画時代に、某大学の入試課長から紹介されて付き合いが始まった。三和興業印刷時代の話である。そして今から三十年前の秋、それまで三和興業印刷で制作していた共立女子大の大学案内が、初めてコンペで制作会社を決めることとなり、野口社長は私に協力してくれと相談にやつてきた。

コンペはリクルートと日本ドリコム、そしてライオン企画の三社で争われたが、野口社長と協力しながら勝利した。その後アローコーポレーションに移ってから、都合六年間、共立女子大の大学案内制作に携わらせて貰っている。

また、実践女子大学も野口社長からの紹介で取引が始まり、実践女子学園中・高の学校案内もアロー開設四年後、三和興業印刷からエスピーエヌに変わってから二年後の一九九九年から十四年もの間、アローで制作、エスピーエヌで印刷を手掛けていた。プライベートのことも面倒を見てくれた。それは一九九五（平成七）年、私がアローコーポレーションを立ち上げる時、最低でも一千万円ほどの資金が必要である。その時、ライオン

私の履歴書

齊藤勝好

幼稚園ー2

幼稚園に通っている頃の思い出は沢山ある。全部を書こうと思ったらあと3〜4回分くらいは書けそうだが、今回で納めたい。幼稚園での出来事よりも家での出来事が多く印象に残っている。

これは、あまり綺麗な話ではないが、当時の我が家はボットン便所だった。自宅は1階が鉄工場で2階には部屋が沢山あり、そこが我々の生活の場であった。当然、便所

も1階と2階に有り、おもに我々は2階のものを使用していた。そして、当時



左から妹・母・兄・筆者(5歳)

便所に入る時はスリッパではなく木のツカケサンダルを使っていた（昔の旅館によくあるやつ）。5〜6歳の小さい子どもにとつては、ブカブカで歩きにくいものだった。そんな歩きにくい物を履いて大便器（当然和式）で用を足して、出ようとした時に足を滑らせて大便器の配管に落ちてしまった。配管といっても子供ならスッポリ入ってしまうくらい大きなものだが、幸いにして体が引っ掛かったのか、手で便器につかまったからかは定かではないが、下までは落ちなかった。そこは2階にある便器だから当然その配管は1階の肥溜めまで一直線。そのま

ま下まで落ちていたら、肥溜めに溺れて、今の自分は存在していなかったであろう。僕は身動きが取れず、必死に大声で『誰か！助けて！』と便器の中から叫んだ。その時の景色（便器の中からの便所の眺め）は今でも覚えている。幸いにして、すぐに叔母が助けに来てくれたので、なんとか一命を取りとめて、メチャクチャにされた。（笑） 続く

企画と取引していた銀行が三〜四行あり、毎日のように支店長たちが金借りてくれと押しかけていたが、いざ、個人的に別会社を立ち上げるための資金調達の話にはどこも聞かないふりをされていた。そこで野口社長にその事を話したら、当時、小銀行だったが太平洋銀行（現・三井住友銀行と合併）の支店長を紹介してくれて、一千二百万円ほど借りる事が出来、何とかアローは日の目を見る事が出来たのである。これも野口社長の力添えのお陰であった。

真面目な話はこのままにして、野口社長と言えば思い違い、勘違い、ミステークの多い性格であることは否めない。

これもまた三十年ぐらい前の話し。それは夏の或る日の出来事だった。野口社長は会員権を買ったばかりの福島県の白河メドウゴルフクラブへ私を誘った。同伴者は私の社でもかなりの取引がある某大学の局長と某予備校の理事長だった。私はちょうど車で仙台へ出張しており、その帰りの夕刻、東北新幹線の新白河駅に三人を迎えに行き、ゴルフ場近くの羽鳥湖畔のペンションへと向かった。しかしガソリンが切れかかっていた、野口社長に「ガソリンを入れないとやばいヨ」と言ったら、「大丈夫、大丈夫。泊まる場所はすぐそこだから」という言葉が返ってきた。ところがいつまで経っても目的地に着かない。当時の車にはナビも付いていないし、七曲りのような急な上り坂は続くしガソリンの減りもみるみる早い。

やつと野口社長が予約していたペンションに着いたときは、駅

る事が出来た。（自分に運があるのはこの事件のお陰か？）

この事件があつてから直ぐに我が家のトイレは水洗トイレに改築された。

もう一つ。当時、我が家には工員さん

達のご飯を作ったり作業着の洗濯などの為にお手伝いさんがいた。父の経営するバー『ユー浪花』のチーママの妹さんで、とても綺麗なお姉さんだった。ある日、風呂に入ろうとしたらカギが掛かっていた。我が家の風呂は2階から1階に降りる階段の下にあったので、階段を降りる足音で僕だと分かったのだろう。風呂に入っていたお姉さんが中から「かつちゃん？一緒に入る？」と言ってくれるではないか！僕はめでたく、その綺麗なお姉さんと一緒に風呂に入ることが出来たのだ。だが、その後が大変だった。ルンルン気分でお風呂から上がると、若い工員さん達から「かつちゃん、〇〇ちゃんと一緒に風呂に入ったのか？ズルイぞー」と言っ

から三十キロほど走っていた。すぐそこじゃありやしない。そして追い打ちをかけたのは、野口社長が予約を入れていたのは明日の日のことだった。今晩はもう満室だとのことである。何とか頼み込んで、空室のある仲間のペンションを探して貰って事なきを得たが冷や冷やものであった。

翌日プレーを終えて帰路に就く際、もうガソリンはからつた。そうしたら野口社長の言うことには、「帰りはずーっと下り坂だからガソリン無くても大丈夫だよ」と、恐ろしいことをのたまう。結局、たまたまゴルフ場に貯蔵してあったガソリンを五リットルほど譲り受け、無事に新白河駅まで送ることはできたが、まだその前に別件でまた一悶着あった。ゴルフ場を出たあと野口社長は、「この近くに釣り堀があつて、そこで釣れるイワナの塩焼きが美味しいので食っていきましょうヨ」。そこで言われるがまま釣り堀に向かったらその日はお休み。「やれやれまただヨ」といった具合で、もう呆れてモノも言えない状態になった。しかし、誰も野口社長のことを怒ったり憎んだりしないのだ。私もそうだった。何だか分らないが憎めないのだ。これは野口社長の特権なのか。否、基本的には普段から他人に対して面倒見が良い、何とか良いようにしてやろうという思いがあるから、その過程の中で、思い違いや勘違いも出るであろう。まあヨシヨシじゃありませんか。野口亨様、いろいろ面白い思い出、有難うございました。

（株式会社アローコーポレーション 創業者）

編集後記

今まで、この『エスピーエヌ新聞』は仕事の関係先にお配りしておりました。ですが、前号からは私の身内にも配布させて頂いております。（創刊号と第二号も併せて）

新聞を読んだ上の妹が、「かつちゃん結構我慢していたんだね」と感想を言ってきました。下の妹は「私が知らないことだらけだし、私が全然出てこない！早く次を書いて」と催促する始末。下の妹が生まれたのは、私が小学校三年生の時なので、もうしばらくは時間がかかりそうです。また、叔母さま（叔父の妻）からは「結婚する

前にデートで『ニュー浪花』に連れていかれた事があつたわ」と、僕も初めて聞く話が出てきたりしました。

『私の履歴書』もある程度が書き上がりましたら、一冊の本にしたいと思っています。そして、これを書いていて思うのですが、父や祖父の自伝も有れば良いのになあ、と感じました。有ればぜひ読んでみたいのですが、残念ながら有りません。ですので、これを読まれた方は是非とも自伝を書かれる事をお勧めします。子供・孫の代まで自分を伝えることが出来ます。よろしければ弊社でお手伝いさせて頂きますよ。